

平成28年度

第 3 回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(平成28年10月 第三回)

- 1 日 付 平成28年10月22日 (土)
- 2 場 所 海老名市立海老名小学校
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎

教育総務課長 吉川 浩 教育総務課総務係長 佐藤 哲也

教育総務課主事 魚谷 尚子 教育総務課主事 神福 壽子
- 5 開会時刻 午後1時30分～
- 6 協議事項
(1) 児童生徒及び教職員の生活時間について
(2) 保護者の経済的負担のあり方について
(3) その他
(海老名中学校区での身近な話題などについて)
- 7 閉会時刻 午後3時09分

○教育部長 皆様こんにちは。ただいまから平成28年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。私は本日司会を務めます教育部長の岡田でございます。よろしくお願いいたします。

なお、進行につきましては本日お配りしております次第により進めてまいりたいと思います。

初めに、市長及び教育長からご挨拶を申し上げます。

初めに内野市長、お願いいたします。

○内野市長 教育委員の皆さん、こんにちは。そして本日は多くの傍聴の皆さんがお見えになっております。総合教育会議は、去年は市役所を中心に年6回行いましたけれども、今年度からやはり学校に出ていこうという形で始まっております。傍聴の方、PTAの方、保護者の方、いわゆる関係者の方からも意見を求めたいと思いますし、本日は校長先生もいらっしゃるということでありますので、さまざまな意見を聞いてよりよい教育環境を市長としてはつくってまいりたいと思っています。そして教育内容については、私ども教育長を中心とした教育委員の皆さんがいらっしゃいますので、そういった中で子どもたちの教育の問題について多くの議論をいただいております。本日は傍聴の方あるいは保護者の方もご意見がありましたら意見を求めたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○教育部長 ありがとうございます。それでは続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○伊藤教育長 こんにちは。教育委員会の伊藤でございます。教育委員会という制度は本来にわかるようでわからなくて、実を言うと海老名市の教育の施策とか、例えばどこを学区とする、どんな学校をつくるとかというのは、最後は、私と今座っている4人の教育委員さんの5人の合議制で決める、簡単に言うと、よく話し合って、最後、意見が分かれば多数決等の方法で決めると法律で決められています。さまざまな海老名市の教育施策を最後は5人で話し合って決めています。そういう中で昨年度から海老名市は、新教育委員会制度ということで市長がそれぞれの権限を持ち、教育そのものには権限を持たないのですが、市長も含めて海老名市の教育の方針を決めて、そのもとで教育の具体的施策は我々5人の合議制で決めるという制度になりました。多分皆さんの教育委員会というイメージは、何か少し違う場所で物事が決められているというイメージ、または教育委員会というのは学校を管理して、教育を強引に進める場所とか、そのように思われがちのところ

があるのですけれども、そういう中で市長はタウンミーティングをずっと繰り返し行っておられましたので、教育委員会もこのような形で地域に出て、教育委員会自体がどういうものかをきちんとわかっていただいて、また、ここでの議論を聞いていただいて、皆さんの各地域地域で開かれた中で、地域の方や保護者の方から聞いた意見を踏まえて、また5人の合議の中でそれを参考意見にしてよりよい海老名の教育を進めたいということで、このように行っています。

本日は、子どもたちや教職員の生活の様子、それから保護者の方々の経済的な負担をどのように軽減していこうとか、各中学校区の諸課題、問題について話し合う場になっておりますので、我々の話し合いをもとに皆さんの意見をどんどん出していただいて、よりよい総合教育会議にしていきたいと思います。

私、10月に他市町村の教育長が集まる会議に行つたのですけれども、総合教育会議を年6回やっているのは海老名市ぐらいで、あまりたくさん開催すると「うちの市でもやれと言われるから少し海老名は控えてください。」と言われるぐらいなのです。他市は大体2回ぐらいです。でも、海老名としてはこれからも皆さんと対面して話し合う場を多く持っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは続きまして、お手元にございます次第の3、総合教育会議と教育大綱についてでございます。こちらにつきましては教育部次長の金指からご説明申し上げます。

○教育部次長 それでは、私のほうから総合教育会議と大綱についてご説明させていただきます。お手元の資料、それから正面にパワーポイントが表示されていますので、ご覧になっていただきながらご確認いただければと思います。

まず、総合教育会議でございますが、これは昨年平成27年4月に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正で新たに設置されたものでございます。具体的には市長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設けられた協議・調整の場でございます。よって、本日のこの会議については市長が招集し、原則、公開で行うということになってございます。

また、総合教育会議の協議・調整事項でございますが、これは（2）に書いてございます。3つに整理してございます。1つ目が、教育行政の大綱の策定、こちらについては後ほどご説明したいと思います。2つ目が、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、重点施策です。3つ目が、児童生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置、こ

れらを総合教育会議の中で協議・調整を行っていくというものでございます。

それから、（３）開催回数でございます。先ほど市長、それから教育長からもお話がありましたけれども、海老名市の場合、去年は計６回開催しました。本年度は、各中学校区で同じように６回を予定しているところでございます。

続いて大綱でございます。教育大綱とは、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針を定めるものでございます。その策定については、総合教育会議で市長と教育委員が協議・調整を尽くし、市長が策定するものでございます。本市の場合には、全国に先駆けまして去年の４月に大綱を策定しているところでございます。

次に、海老名市の教育大綱は具体的にどうなっているのというところですが、まず１つ、目標です。「『しあわせをはぐくむ教育』のまち海老名」を目標に掲げてございます。具体的取り組みとしては３つの輪がありますけれども、これらが相互に絡み合いながら進めていくということでございます。子どもと大人がともに成長する社会、子どもたちの今と将来のしあわせのための教育、家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり、これらの取り組みを進めてまいります。

具体的な施策としては下に３つ、朱書きで書いてございます。「えびなっ子」しあわせプランの推進、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実、安全安心な環境と新たな学校施設への取り組みの３つでございます。

以上、簡単に説明させていただきましたけれども、教育大綱のイメージというのがお手元のほうにもカラーで資料が添付されていると思います。それを後ほどご覧いただければと思います。

簡単ではございますが説明は以上でございます。

○教育部長 それでは引き続き、協議に入りたいと思います。案件につきましてはお配りいたしました次第のとおり３件となっております。

なお、先ほども市長からお話がありましたけれども、会議中、保護者を中心とする傍聴の皆様にご意見をいただく場合もございます。何分限られた時間でございますので、恐れ入りますが、ご発言は簡潔にお願いいたします。

それでは、ここからの協議の進行につきましては内野市長に議長をお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項の１、児童生徒及び教職員の生活時間についてを議題といたします。初めに事務局から説明を求めますけれども、前回、第２回海老名市総合教育会議のときに対象のサンプルが少ないと指摘されました。後ほど教育長から説明がありますが、つい最近行った全国学力・学習状況調査の結果がある程度出ています。しかしながら、本日の段階でその部分が集約できておりません。後日教育委員会等では発表するようになっておりますので、本日は事務局から前回のサンプルをもとにした説明をお願いしたいと思います。

○教育総務課長 それでは、私、教育総務課吉川のほうから、児童生徒及び教職員の生活時間についてご説明したいと思います。

お手元に資料を配付しておりますけれども、資料の３ページの上段をまずご覧ください。児童生徒及び教職員の生活時間についてでございますが、まず（１）教員の勤務実態でございます。こちらは文部科学省の助成を受けて行われました教職員の全国の意識調査でございます。平日（授業がある日）に学校で仕事をする時間ではありますが、小中学校ともに11時間ほどとなっております、また家に帰ってからも1時間弱、授業の準備をしております。

土日も含めた1週間の勤務時間でございますけれども、内訳は表のとおりでございますが、授業、授業の計画や準備のほかに、授業以外の子どもへの指導、保護者の対応などがございます。

それでは、下段に行きまして（２）の生活時間調査でございます。今回、児童生徒及び教職員の生活時間についてを議題として協議するに当たりまして、事務局で生活時間の調査を行いました。なお、今回はサンプルということですのでモデルケースとご理解いただければと思います。

まず、目的でございますけれども、児童生徒及び教職員の1週間の生活時間を把握するために行いました。

実施方法でございますけれども、児童生徒につきましては市内の小中学校からそれぞれ2校、合計4校を選んだ上で、小学生は3年生と6年生の児童を1名ずつ、中学生につきましては1年生と3年生の生徒から1名ずつを抽出させていただいて調査にご協力いただきました。

また、教職員につきましても、市内の小中学校それぞれ2校を抽出いたしまして、初任者、いわゆる新任の先生と、それから10年以上の経験のある先生を、それぞれ2名ずつ、

4名の方に調査いたしました。

調査の実施期間につきましては、6月20日の月曜日から26日の日曜日の1週間でございます。

次ページ以降に、今回の調査につきまして8タイプの調査結果を添付してございます。資料につきましては後ほどご覧いただきたいと思います。

少し資料は飛びますけれども、8ページをお開きいただきたいと思います。8ページは調査した8タイプのまとめでございますが、こちらに傾向をまとめてございます。

まず小学校の児童につきましては、休日を含む週の3日から5日間程度を習い事とか学習塾に時間を費やし、非常に忙しい生活を送っております。なお、習い事につきましては、勉強以外ではミニバスケットボール、少年野球、またサッカーなども含まれております。それから、毎日家庭学習はするものの遊ぶ時間が総じて少ないという傾向がございます。

次に、中学生の生徒でございます。中学生になりますと、家庭学習は減るものの、1週間のうち休日を含む5日前後は学習塾に通いまして、さらに平日と休日には部活動があり、1週間を通じてお休みがないというような状況でございます。

次に、教員のほうに参ります。8ページ下段になりますけれども、小学校の教諭は、授業、校内研究、それから会議等に加えて、教材研究にかかる時間が多くございます。

1日で9時間から12時間程度を費やして非常に多忙であるということがわかりました。また、休日出勤につきましてはございませんので、一応余暇の確保はできておりますけれども、休みの日も家庭等で教材研究を行っていることがうかがえました。

中学校の教諭でございますが、小学校と同じように、学校に教材研究、さらに部活動が生徒と同じように加わりまして、平日で13時間、休日では7時間から15時間程度を費やしているということで、中学校の教諭につきましても非常に多忙であることがうかがえました。そのため、中学校の先生につきましては余暇の時間の確保がなかなか難しい状況になっております。

以上、雑ぱくではございますが、調査結果をご説明させていただきました。

○内野市長 それでは、全国の学力・学習状況調査の結果を教育長からよろしく願います。

○伊藤教育長 今年の4月に、小学校は6年生、中学校は3年生に、大体海老名は各学年1,200人程度を対象に実施しました。国語、算数、数学のA、Bとありますが、Aという

のは基礎学力、Bというのは活用の能力を示し、学力テストを行いました。その中に子どもたちへの質問紙が入っているのです。そこで生活の状況もある程度見えるようになっていきます。これは子どもたちの基礎的な生活時間、要するに規則正しく寝ていますか、規則正しく起きていますかというのが上の2つのグラフです。そうすると小学生のほうは全国よりも少し規則正しく生活しているのがわかると思うのです。82.5%の子たちが同じぐらいの時間に寝て、同じぐらいの時間に92.5%がしっかり起きているということです。全国はそれより下です。ところが、中学校になると少し全国平均より低くなる。74%ですから4人のうち3人は規則正しく寝るのだけれども、1人は毎日時間が変わってしまうという結果でございます。起きる時間も少し全国より低いです。

その要因としてよく言われるのが携帯電話、ゲームとかスマホとか、そういう機器類を子どもたちは夜扱っているのではないかということが言われています。それが下の段にあります。左側が小学校です。小学校はグラフでいうと3時間以上から4時間未満と、4時間以上とありますけれども、ほとんど全国と変わらないです。同じような感じで子どもたちは使っている。ところが中学校になると、緑は全国で水色が海老名市ですので、中学3年生の子どもたちは3時間以上4時間未満と4時間を足すと大体21%ぐらいになりますので、家に帰った後、5人に1人の子が3時間以上も毎日携帯とかスマホとか、そういうものに時間を費やしているということになります。

そういう意味では、上の生活時間とスマホなどとの関連はある。ただ、子どもたちの生活というのは、小学校は勤勉性を学ぶ時間です。中学校はその勤勉性を学んだ上で自分で判断する力を学ぶ場所ですので、例えば、親御さんが中学生を相手にこうしなさいと言っても言うことはそんなに聞かないと思うのですよね。それが勉強しているということです。自分で判断して、自分で正しいと思うことをやるのが中学生の勉強です。ただ、そのもと小学生のうちにどれだけ勤勉性を学んだかというのが基礎にはなると思います。そういう意味では、中学生はこの中では全国よりも少し時間数が多いかなと思います。

次に進めてください。これはそういう中でどれぐらい勉強しているかなということです。左側は3時間以上ですけれども、これは学習塾とか家庭とかを含めて、実を言うと赤の海老名市の小学生は、全国の子どものオレンジ色より少し毎日勉強していないです。ところが中学生になると、緑が全国で水色が海老名ですので、多くの子どもたちが2時間以上3時間未満は勉強しています。

その勉強はどんな形態かというと、右のグラフでは学習塾や家庭教師で勉強している割

合を示しています。小学校は全国に比べて同じぐらいですけれども、市の中学生は73%と4人のうち3人は学習塾なり家庭教師でやっている。ただ全国でいうと60%ぐらいしかやっていないので、海老名の子どもたちはそういう機会は家庭で多く与えられているということがわかると思います。

次に進めてください。少し生活時間を説明していただいたのですけれども、子どもたちへの質問紙の中には、例えば学校に行くのは楽しいですかというのが聞かれているのです。赤が海老名の子ども、全国はオレンジ色を示します。これは小学生です。同じぐらいですけれども、もう少し学校に行くのを楽しくなってほしいなと私としては思っているところです。86%ですので、逆に考えると14%の小学生が学校に行くのはあまり楽しくないと感じているのは、少し私個人としてはショックです。

中学生を見てみますと、全国の緑よりもいずれも高く、中学生の場合は全国の中学生よりも学校に行くのは楽しいと感じているみたいです。その要因を探りたいのですけれども、例えば左側の下の段は、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますかとあります。全国のオレンジ色の小学生と比べると赤は少し下がっていますね。となると、学校とか家庭の中で子どもたちにチャレンジさせたりするようなことを少しやってほしい。

中学校は、全国を緑、海老名を水色で示しています。これは、中学校で例えば体育祭とか合唱祭とかいろんな行事の中で結構子どもたちはクラスごとにチャレンジしますよね。そういう活動を学校教育で取り入れているのがあるのかなと私はとても感じています。

同じように右の上の、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますかというのはほとんど変わらないですけれども、小学校は全国でも0.1%下がっています。ところが、中学校は水色と緑を比べると水色の海老名の方が上がっています。中学校は学校活動の中でそういう活動を意図的に入れているのかなと感じるところでございます。

子どもたちに、学校で教育を受けて自分のよいところ探しというか、これは自尊感情というのですけれども、先日、読売新聞でも、全国の最後の結論のところ、欧米と比べると日本の子どもたちは自分をよく思わないとか自尊感情が低いと報道されていましたけれども、私が少し安心したのは、テストの数字で安心してはいけないのですけれども、海老名の子どもたちは全国よりも、小学生も中学生も自分にはよいところがあるのだと思ってくれていることは、これをさらに伸ばしたいなと思っているところでございます。先ほどの小学校は規則正しい生活習慣で、中学校は少しその生活習慣が乱れる。その要因として

携帯、パソコンがある。全体のこういう中で子どもたちは、自分によいところがあるのだろうけれども、小学校はもう少し学校の教育の中で集団で何かにチャレンジするようなことを組み立てる必要があるし、中学校はその成果があらわれているなというのが私の感想でございます。

これ以外に、実を言うと、先ほど言った国語と算数、数学のテストの結果ですが、海老名市は神奈川県他市に先駆けて3年前から市のものは全て公表しています。今年は少し文科省の集計のミスがあつて結果が遅れていますけれども、12月中までには確実に海老名市の結果をホームページには載せますし、保護者の方々には、各学校の様子とともに全部お渡ししますので、またそれを詳しく見てください。この項目は何十項目もありますので、それを見ていただきたい。

小学校は、相対的に言うと海老名市の学力は全国より下回っています。ただし神奈川県は、5%ぐらいは同程度と考えていますけれども、そういう意味で言うと全国と同じなのですけれども、詳しく見ると少し下回っています。

逆に中学校は、全てにおいて全国を上回っています。3年間の経過でいうと、小学校は下回ってもその差はすごく縮まって、今年、4領域あるうちの国語の活用の領域で小学校は全国を上回りました。このような形で、小学校としては努力をずっと続けたその成果が出てきているところなので進めてほしいと思います。点数で言いましても、海老名小中学校の今年のこの学年の子どもたちは、小学校、中学校とも全国を上回っている状況にあります。

最後の学力のことは少し蛇足でございますけれども、そういう生活の状況でございます。

○内野市長 事務局からは前回と同じようなサンプルに基づいた問題、教育長からはつい最近の全国学力・学習状況調査の結果がありました。教育委員の皆さんから何かご意見がございましたらどうぞよろしくお願いいたします。

私が意外に思ったのは、学校に行くのは楽しいというのが86%もいるというのはびっくりするんですね。私は小学校、中学校、学校は楽しくないと思っていたから。学校に楽しいという雰囲気で行ったことがないから、行かざるを得ないという形で行っていたから、昔とやはり違うのかなと。

もう1つは、今教育長が言った小学校の学力と中学校の学力というのは、勉強の時間と塾の時間とかに比例して出ていますよね。興味深い。

○海野委員 では最初に、生徒と先生の1週間の記録を見させていただいて少し、私なりに感じたことを先にお話しさせていただきます。

最初に感じたのは小学校3年生の就寝時間が遅いのではないかと思います。これでいきますと10時ごろに寝ていますね。10時に寝るというのは少し3年生では遅いのではないかなと思います。先日新聞に出ていましたけれども、現在は低体温の子が増えているそうです。それを防止するには9時に就寝して6時に起床するのがベストだそうです。低体温の子は朝の食欲がなくて朝御飯の食べる量がとても少ないから1日の循環が結果的に悪くなるということが出ていました。ですから、なるべく小学校3年生ぐらいのときは9時ごろ寝たほうがよいのではないかなと思います。でも、先生も子どもたちもとても毎日忙しい結果が出ていますので、それは少し無理かなとは思いますが、各ご家庭では、小学校低学年のうちはなるべく早く就寝させてもらいたいなと思います。

それとあと食事の時間が少し短いということがあって、何か親御さんとのコミュニケーションで、学校内で起きたことを十分に親御さんが把握されているかなということも疑問でした。それは小学校も中学校もとても感じられました。

あと、初任者の小学校、中学校の先生ですけれども、何かとても忙しくて、余暇が少なく、授業の勉強をしていただくのはとても嬉しいですが、子どもたちに向き合っていていただく心のゆとりが持てるかなというのがとても心配でした。それに学校事務がどのぐらい学校の中において行われているのか、とても時間的にも多いような気がします。その点は専門のスタッフで事務作業を補助することがもう少しあったほうがよいかなと感じられました。

○内野市長 ほかにございませんか。

今、事務業務の話が出たのですけれども、小学校の先生が使っている事務時間は1週間で6時間から7時間ぐらい。中学校が7時間47分。これは大まかに言うとなんをやっているのですか。現場の先生がいらっしゃるけれども。統計上内訳が出ているのですが、誰か教えてください。事務業務と言って今海野委員から出たのは、事務の専門家がやればよいという問題なのか、先生としての事務業務なのか、これが私はわからないのだけれども。

○海老名中学校長 海老名中学校の飛矢崎です。この表を見ると、事務業務というのは、教員の一番の仕事は授業をする、その授業をするに当たっての教材研究、そのほかに、職員の組織図の中でいろいろな学校の業務を分担する分掌というのがあります。分掌というのは細かく言うと例えば生徒の机・椅子の数とか、あと清掃用具の消耗品の管理とか、校

内の中のさまざまな細かい仕事を、役割分担を決めて行っているところです。それが事務業務だと思います。

○伊藤教育長 私も教員だったものですから、教員にはさまざまな事務があつて、例えば4月の最初はほとんど事務です。子どもたちが来ると、子どもたちが例えば38人いるとまず全員の名簿をつくらなければならない。そういう名簿をつくる業務とか、今はパソコンですが、昔はゴム印を並べて何枚も押したり、そういう事務の業務もあつて、あとは授業が始まると、それぞれ授業の準備とは別に子どもたちの成績の管理をしなければいけません。それから毎日の出席の管理もしなければいけません。そういう書類も全て先生たちはつけていきます。それを学校全体で取りまとめる事務をする方もいらっしゃいます。それから、最近で一番大変なのはよく言う成績ですね。通知表が皆さんのご家庭にも行くと思います。あれも全て教員が自分で手作業で書いたりする。それについては、実を言うと海老名市では、昨年度は中学校、今年度は小学校で、校務支援システムという、先生方のそういう事務作業を助けるソフトを入れてありますので、それについては担当の和田から、どのようなことで事務作業を支えているのか、説明させます。

○教育支援課指導係長 教育支援課の和田と言います。よろしくお願いいたします。

教育支援課で学校の先生方の負担軽減ということで校務支援システムというソフトを使用することといたしました。去年は中学校の学籍・成績システム、今年度からは小学校の学籍・成績システムを取り入れたわけですが、具体的にどういうことかという、例えば名簿を作成したもの、その名簿を、出席簿または通知表、学習指導要録等に毎回毎回同じ作業を先生方はこれまでしてきたわけですね。それを1つ名簿をつくってしまえば、それらを2次利用して作成できるようなシステムで、効率よく校務を軽減できる、しかも安全に個人情報等を管理するシステム、これを導入させていただきました。

○内野市長 今、和田先生が言ったのは、小学校の通信簿を見ると出席日数と欠席日数、それから早退とかがあります。そういう場合はパソコンに入っていて、そこに打ち出すということですか。

○教育支援課指導係長 出席簿を作成すれば、そのまま通知表にデータが飛ぶという感じですね。移行されるということです。

○内野市長 ほかにありますか。どうぞ。

○松樹委員 松樹と申します。よろしくお願いいたします。

小学校、中学校の児童生徒、そして教職員の皆様方の生活実態を見せていただいたので

すが、やはり毎回出てまいりますけれども、中学校の教師の先生、本当に忙しいな、いつ休む暇があるんだろうと、これを見て思います。ご家族を抱えながら、例えば日曜日に子どもにディズニーランドに行こうよ、パパなんて言われたら、これも部活動が入ったら行けないわけですね。いつ休まれているのかなというのがありますので、この辺は逐一何らかの形で改善を図っていかねばならないと思っております。

それと、先生が忙しい中で、私は、学校の先生の職務分担とか、やることが結構多岐にわたっているのではないかなと思うのです。もちろん児童生徒を教えていくというのは先生の職務であるのですけれども、プラス、もちろん学校ですので、学校管理、施設管理というものが入ってきているのだと思います。例えば、草むしりだとか、いろんな細かいことから、どこか壊れたとか、よっぽど大きいものがあれば教育委員会のほうに言って直したりとかありますけれども、細かいところは先生たちが逐一手直しを入れてという形だと思います。その辺の時間等もこれだけの施設を抱えているわけですので結構かかってくるのではないかなと思っております。その辺を何かうまく分担というか、専門の方がいるか、施設管理だけうまくやっていただくかとか、いろんな考え方があるのだと思いますが、そうすると少し子どもたちと接する時間がまた増えてくるのではないかなと思っております。

あと、小学校の子どもの放課後で遊びと書いてあるのですが、遊ぶ時間はこんなものなのかなという感じですが、この遊びの中身というのがもしわかるようであれば教えていただきたいと思うのです。今はスマートフォンとか携帯ゲームなんてありますので、その辺なのか。私は裏に山がありますので子どものころ山で遊んだりしましたが、公園等で遊んでいる子どもも余り見ないですし、うちの裏山、秋葉山という山があるんですけれども、そこで遊んでいる子どもを最近余り見ることがありません。その辺は教育委員会だけではなくて、市長もいらっしゃっておりますので、例えばまちづくりの観点で子どもが遊ぶ場というのをどう捉えているのかなというのもお聞きしながら、内容がわかれば教えていただきたいと思っております。

○内野市長 今、松樹委員から出ました遊びの時間は、中心的にどういう場所ですか。コミセンですか。

○教育部次長 今回の調査では遊びの場所までは調査対象になってございまして、詳細についてはわかりかねますが、ただ時間数としては、時間帯が例えば20時以降であるとか、あるいは学校を終わってからかなり短い時間帯になっているということなので、本

当に身近なところで遊んでいる、もしくはご家庭で遊んでいるというような印象ではないでしょうか。

○伊藤教育長 遊びということで、これは学校の教員たちの管理の仕事も含めてなのですが、けれども、実は今、小学校には学校応援団という方々がいて、学校の環境等も含めてかなりお手伝いいただいています。多分海老名小でも杉本小でも同様に地域の方々とか応援団の方々にお手伝いいただいているし、あと遊びという点ではあそびっこクラブというのが海老名にはありますので、そういう中で門戸を開いて子どもたちどうぞと言うのですが、それはご家庭の利用のもので、子どもたちがそれをどう利用するかはあると思います。そういう中では、時間は短いかもしれませんが、毎日子どもたちが遊ぶ。でも、松樹委員がイメージしているような、子どもたちがお互いにグループで遊ぶというのとは少し違うかもしれない。

でも現状の課題で、海老名市内どこでも、公園で、放課後に子どもたちだけで遊ぶというのは、本当に社会がそういう社会になってしまったのですけれども、ある時期から非常に難しくなりました。附属池田小学校の刺殺事件から、学校も人をつけて学校自体を守らなければいけない。アメリカは警察の方が入って守るような状況になって、子どもたちが自由に地域の公園で遊ぶのは難しい。そうするとコミュニティセンターとか、それからビナレッジ、そういう公的なものの中で、集会室や待合室、皆さんが共通に使われる場所で子どもたちは遊んでいるケースが多いです。その中で遊びがどうだということについてはかなりいろいろ問題視されているところがございますけれども、個別にそのことを調査したことはないです。

海老名市教育委員会としては、あそびっこクラブということで、放課後、子どもたちが遊ぶ場、それから実態としては、公園とかじゃなくて、ある程度公共施設で、守られたところで遊んでいる子どもたちも多くいるのではないかなと思います。

○内野市長 よろしいですか。ほかにはございますか。

○岡部委員 この資料を前から見せてもらって先生たちも子どもも忙しいなというのが正直なところなのですが、4ページの小学校児童の1週間の記録、朝御飯の前に家庭学習というのがずっと入っていますけれども、起きてすぐ毎日勉強しているということですか。

○内野市長 これは学校へ行く準備でしょう。

○岡部委員 ランドセルに入れるということですか。

○内野市長 これは私もそう思った。朝から勉強やっているのかなって。1週間なのだけ

れども。

○教育部次長　こちらについても詳細までは確認ができていないのですが、今のお話、市長からもありましたけれども、学習の支度であるとか、そういったことも含むのかもしれない。

○岡部委員　わかりました。

○内野市長　小学校の先生、校長先生、いらっしゃいますか。

○海老名小学校長　海老名小学校の安齊です。よろしくお願いいたします。

これは調査を見ますと、翌日の支度については前の日のうちにやっていますので、これはその子の1日の生活のスタイルによって違いますけれども、このお子さんの場合は朝学習をしていると捉えてよいのかと思います。お子さんによっては、朝に勉強はしないけれども夜にするとか、そういうパターンがありますが、このお子さんに関しては多分朝、家庭学習と入っておりますので、朝、決めて勉強してということだと思っております。お子さんによって1日の生活のパターンが違いますけれども、そうだと思います。

○内野市長　岡部委員、よろしいですか。

○岡部委員　忙しいのはよくわかるのですが、先生の働き方について、私、教育委員になってから友達と、とても忙しいのだという話をよくするので、教師の働き方を話題にしたときに、教師より大変な職業はたくさんあるのだよとよく言われるのですね。確かにそのとおりですが、学校と企業を同列に考えてはいけないのかなというふうに考えています。今、すごい残業で自殺したなんていう話が新聞にも出ていましたけれども、苛酷な働き方を強要されて従業員が元気のない企業というのは、いずれマーケットとか消費者からそっぽを向かれるだろうと思います。ところが、学校の場合には、そのしわ寄せというのは子どもに向かっていくわけで、子どもは抵抗する術がない。そういう意味では、親としても疲れ切った先生に子どもを預けたいとは思いませんので、自由に伸び伸びとした発想をする子どもに育ててもらうには、やはり先生もそこら辺はゆとりがなければいけないのかな。今のような状態をずっと繰り返していくと、回り回って、最終的には未来の社会がそのツケを払わなければいけないのではないかなと考えたりもします。

そこで、学校の先生の残業というのは報酬の面からどうなっているのか、改めてお尋ねしたいと思います。仕事がたくさんあるのはしょうがないだろうと思うのですが、事務の改善をして、どうしてもやむを得ずやらなきゃいけないものについては報酬を支払

うというのを国としては考えていないのかどうか、改めてお尋ねしたいと思っています。事務改善とあわせて、正当な残業には報酬を払うほうがいいというのが私の考えなのですが、その辺をお尋ねしてよろしいですか。

○伊藤教育長 私が管理をして私がお金を払っているわけではなく、教職員については国と県が払っている状況でございます。ただ、教職員については、以前は調整手当というのがありまして、今でも少々あるのですけれども、市のほかの公務員と給料を比べると、実を言うと教職員の給料は高いのですよ。それは残業というものがないということです。残業手当がない分、ある程度調整手当として乗っかっているということがあります。ただ、教職員の組合の方と話す中では、調整手当は要らないからきちんと残業時間に応じた金額にしなければいけないのではないかとという労使とのやりとりがあった時代もあります。でも、今はない状況です。ただ、土日のものとか、遠足に付き添いしたとか、部活動の指導に当たったということについては、特別勤務手当というのが充てられることはあります。ただ、それは高い金額ではなくて、非常に低い金額の特別勤務手当というものはありますし、あとは、大体学校とかは1年間の枠が決まっていると言うと言葉は変ですが、特勤手当は大体何時間程度という枠が決められている状況にあるということでございます。

教職員の負担軽減を考えたときに、一番ありがたいのは、国のほうが教職員の数を増やす、定数というのですけれども、定数を増やす。現在ですと小学校の1年生、2年生については35人学級を目指していますので、35人について1人の先生がつくという考え方で、3年生以上は40人の子どもがいると1人の先生がつくというので、全ての学校の先生の数は決められています。そういう計算式があって、例えば海老名小学校の児童生徒数は何人ですというのが出ると、それに合わせて計算されて先生は何人必要ですねと。もちろん担任の先生だけでなくて養護の先生も必要です。担任何人についてその先生方を全体でサポートする級外といって、担任以外の先生も必要ですので、それも計算に入ります。それと、今ですと少人数の指導が必要ですので、それも計算に入っています。それで定数が決まっています。

でも、海老名市としてはそれでは足りないので、補助指導員という形で海老名市で雇っている先生とか、市費で単独で先生方を海老名市の非常勤として雇って少人数の指導のために配置しています。海老名は、近隣他市と比べれば、多くの教員を市費で、本来ならば国と県の定数で配置するものを、海老名として独自に配置しております。中学の場合は、

いじめ等の対策のために、国や県が配置していないものを市のほうから1名増配置しておりますので、そういう意味では担当しています。

ただ、定数改善は国のほうで文科省と財務省でやっていますけれども、毎年、逆に切られるとか、もう少し定数を減らせとか言われているような状況がある中で、コミュニティスクールとか学校応援団の形で地域の人たちに助けていただいたりしていますので、学校で教職員がふだんやることを、保護者の方、地域の方々と一緒になってやって、それを軽減してもらう中で、そこであいた時間を、先生たちはそれを地域の人や保護者の方に要求するという意味じゃなくて、学校の先生に対して地域の保護者の方が、先生たちは授業と子どもの相手をしっかりやってほしい、そのかわりそれ以外で学校で困ったことがあったら俺たちが助けるからなと、そういう学校のスタイルになること。今、国の定数改善が進まないのを待つよりは、海老名独自でそういう学校のつくりをしたいということで、私のほうはコミュニティスクールの導入とか、おらが学校の学校づくりとか、小中一貫教育の、海老名の新しい学校のシステムを進めているところでございます。

○内野市長 本日、小中学校の先生がいらっしゃいますけれども、これは本当に少ないサンプルなので、パターンとして一般的にこれだという話じゃないと思うのですよ。中学校の子どもと小学校の子どもを見るとなかなか優秀だなと思うのだけれども、部活をやらない人は全然やらないでしょう。学校の先生も、初任者と10年以上の経験者も、意外と教育委員会はいい先生を選抜しているじゃない。中には早く帰っちゃう先生もいるでしょう。パターンとしてはみんながこうではないのですね。全員がこれだったらもっとよくなっているよね。大体何割ぐらい……。

○海老名中学校長 これは委員会のほうから人選は学校に任せられて私のほうで決めたのですけれども、中にはいます。それでも一応9月の末ぐらいまでは子どもの最終の下校が6時になっているので、最後までいた子どもたちが家に無事に着くまでの間、ですから30分、40分。そうすると6時半以降になってしまうのですけれども、ほとんどの教員はそれから帰る。そんなにすぐに帰れる教員はいないのですけれども、部活動とか行事の実行委員とか委員会活動とかで子どもとかかわっていれば、子どもが帰ってから翌日の授業の準備や先ほど言った業務が始まるので、大体の先生がその時期は8時以降になってしまうかなというところですね。

○内野市長 小学校、安齊校長でも藤吉校長でもいいけれども。悪い例は挙げないで、大体のパターンを教えてください。

○杉本小学校長 杉本小学校の藤吉と申します。この調査の時期が6月20日から6月26日ということですので、まだ学期末に入っていないのでこの程度の時間で、土日に余暇も入っていると思いますけれども、学期末とかになってくるともう土日どちらかは学校へ来て仕事をするような教員もいます。今、個人情報在家中に持ち帰って仕事をするとう個人情報漏れてしまうとかどこかに置き忘れてしまうとか、そういったことがあってはいけなくて、できるだけ持ち帰らないで学校で仕事を、成績処理はするようにということで職員のほうには伝えてあります。ですから、もう少し学期末は、8時、でも遅くても9時前には帰るようには言っています。翌日元気に出勤できるように早く帰るようには勧めておりますが、大体8時過ぎぐらいまで残っている教員はおります。

○海老名小学校長 それに加えて、お子さんがおられる教員ですと退勤時間はこれほど遅くまでいませんけれども、そのかわり教材研究については自宅に持ち帰って家でやってくるというパターンがあります。

○内野市長 よろしいですか、このパターン。平井委員、何か一言あれば。

○平井委員 また前回と違った資料が出されていますので見させていただいたのですが、部活動が今まで話題の中に出ていますが、改めて見させていただくと、子どもの疲労度がどうなのかなと。朝練が週の半分以上ですよ。自主的なのか、部で決まっているのかどうかかわからないけれども、子どもの疲労度が1日の中でどうなのかな、それが1週間続くとどういう状況になっているのかなというところは懸念の部分であります。

それから先生たちですが、これは初任者で一部の先生へのアンケートですから、これを全てとは受け取らないまでも、初任者の先生は遅くまで教材研究をしています。特に小学校などは家に持ち帰ってからも。これだけ教材研究を学校ですて、家庭まで持ち帰らなければいけないという、少しこのあたりのところは今後学校として考えていかなければいけないのかなと思います。14時から教材研究を20時ごろまでして、それを持ち帰って家でまたしているという。今、初任者には指導者が入っていますので、指導者が初任への指導をもう少し効率よくできないものかなというふうに思うのです。こういう形でいくと、先ほどから出ているように、先生たちの疲労度がたまって、子どもたちの前にいい状況では立てない。ましてや初任者ですから。そういうところも含めて、もう少し初任者に対する指導というか、教材研究も含めてですが、やっていく必要はあるのではないかなと思われる。

それからもう1点、子どもの学力調査の中で気になったのが、難しいことでも失敗を恐

れないで挑戦していますかというところがありますね。このパーセントが低いですね。これの小学校で低いところが非常に気になりました。これは一体何なのだろうかなと。そのあたりのところは、学びをしているわけだけでも、どういうところで自己肯定力とかそういうものの自信が持てないのか、そこのところがすごく大きいし、中学に行ってもその分は伸びているのですが、小学校として何が原因しているのかなというところは、ここは少し考えていくところではないのかな。学校差はあるにせよ、こういう結果が出ているとしたならば、少し学校の中、また子どもたちの様子を見ていく必要があるのではないかなと感じました。

○内野市長 この際ですから、傍聴人の方、特に保護者の方、この問題で発言したいということがありましたらどうぞ。

○市民 いろいろ見せていただいて大変参考になりました。小学校の調査のことで、先ほど教育委員さんもおっしゃっていましたがチャレンジをする意欲の問題というのがありましたけれども、私たちは海老名小学校で、学校の教育支援ボランティアとしてミシンの活動等に入っております。見ているのですけれども、やはりそういう実技について先生がお1人では非常に大変。1時間に大体多いときで7人ぐらい入りますが、そうするとほぼ個々に入っていきますとやはり達成感というのは全然違うのですよね。全員ができるようになる。とりあえず初めてのことでやってみようと、1つでもそういう経験が出ますとほかのことにもプラスになるのではないかなと思います。

ただ、実技等はそれでよろしいのですけれども、先ほど教育長さんがおっしゃっていただいたように、先生方が、先生じゃなくても大人でもよいのですが、個々に子どもたちに直接指導して、それで子どもができるようになる経験は非常に大事だと思うのですが、ほかの国語とか算数とかは私たちボランティアは入れませんので、先ほどおっしゃっていたように、県とか国の基準は非常に厳しいのですけれども、なるべく市のほうで人数を増やしていただく、あるいは県や何かにも要望は出していきたいと思いますし、私たちもそういう機会があれば出したいと思うのですけれども、先生方の手を厚くしていただきたいということです。

あと、もう1つそれに絡んで、ボランティアあるいは地域の方というお話がありましたけれども、非常にこれは大事なことだと思うのですが、ただ同時に、サマースクールするときとか非常に強く感じたのですけれども、サマースクールときは地域の人間が出ておりますが、やはり責任は地域の間人はとることができない。地域の中での個人情報です

とかいろんな難しい問題もございますので、地域の人間が入る場合は市のほうでのバックアップが非常に必要です。市のほうでバックアップをしていただきつつ地域の人間が安心して入っていけるということを、ある程度お考えになっていただいていると思うのですけれども、大事にさせていただきながら、地域の人的資源を活用していただける形になれば非常にありがたいと思います。よろしくお願いします。

○内野市長 ほかにはございますか。よろしいですか。どうぞ。

○市民 3点ありまして、まず1点目は、アンケートにつきましては、先生もしくは生徒の意見をきちんと別紙のコメントとして入れるようにしてください。これだと時間しかわからないので、皆さん、受け答えの方も含めて、想像でしか話していないので、事実として、アンケートをとった先生や生徒の意見とかが多分あると思いますので、そういうのを聞かないとここでは議論できないと思いました。よろしくお願いします。

それから2点目につきましては、先生の勤務時間について問題があるという話が出たときに、特別勤務手当とか、お金の話がありましたけれども、多分ここで問題となっているのは手当ではなくて、そもそも作業時間をどう減らすかという議論に行かないといけないと思いますので、そこはきちんとやっていただきたいと思います。そこはクラス当たりの人数が少ないとか、人数だけの問題だけじゃなくて、人数を少なくするほかに、作業時間を減らすための別の施策も多分必要だと思いますので、そこら辺の検討もお願いします。

あと最後、いつも出て思いますけれども、部活動の活動時間が先生の場合は多いので、ここは全国でも問題になっていますけれども、何らかの改善を図る必要ありというご意見がありましたけれども、何らかののではなくて、具体的な施策を打たないと先生が死んでしまうような状況だと思いますので、もう少し具体的に議論が欲しいと思いました。

○内野市長 もうお一方いらっしゃいましたね、後ろに。

○市民 中学生のことですけれども、やはり部活動はあるのですけれども、それが前後の移動時間もあって、実際はこのサンプル以上のことをされていて、それはイコール先生の拘束時間が長いということで、忙しいと思うのですが、具体的な改善策がどこにも書いていなくて、もっと具体的な改善策と、いつまでにその改善策を出していただけるのかを教えていただきたいのですけれども。お願いします。

○内野市長 部活動の関係は前回も話題になりまして、今教育委員会で調査を始めています。その部分では、どういった結果というか、調査をしてそのままこうですではなくて、それをどうやっていくかというのは1つの大きな問題がありますので、それは対処してい

きたいという私の考え方を持っています。しかしながら、どういう実態であるかということとは全ての部活動を見ていかないといけないので。特に朝練の問題も出ています。毎日朝練をやっているところもありますから。これだけ朝練、夕練をやったら子どもも参ってしまいうという問題もあります。この問題を含めて、前回6月の第2回目のときから話題になって、調査の対象になって今教育委員会でやろうとしています。これについては何らかの改善策を打たないと、生徒、あるいは先生も困ってしまうという形になりますので、それについて問題は把握しているということでお願いしたいと思っています。

そして、まとめて言いたいと思うのですけれども、今後、各校の学力テストの結果分析が12月に出ます。それぞれの児童生徒には結果の通知が行っていると思いますけれども、学校として、教育委員会として、学力についてはいろいろやっているわけですから、全国より低い、うちの小中学校はこうだということを、ある程度先生方が理解し、それを向上に向けていくという形になります。

もう1つは、この生活の関係の調査も分析しないとけないと思います。この分析した結果、各学校で出ますから、19校ありますから全部同じだということはないとは思っています。それについても分析をしながら、どういう対応の仕方をするかという形の中でやっていきたいと思っています。

先ほどの男性が言われましたけれども、学校の先生の事務軽減の関係では、ITの関係で一部校務支援ソフトが入ったのですね。あと、何ができるか、どういう事務があるか、その全てを今後整理して、やはり何が必要なのかということも学校側からの提案を受けたいと思っていますので、そういった部分で1つ1つ改善していきたいと思っています。

しかし、1つだけ言えることは、どうしても学校の先生の人数というのは神奈川県が決めています。市町村で雇うとなると別個にお金を出さなければいけません。先ほど言ったとおり、海老名市もそれだけの対応をしてきました。少人数学級、あるいは35人学級、いろいろあるのですけれども、相当市単で先生を採用しています。どこまでできるかというのは、はっきり申し上げて予算上の問題もあります。いろいろな子どもたちの関係をやっ
ていまして、例えば、中学校まで子ども医療費の助成をやっております。それを小学校までで終わりにすればその予算が浮きます。全ての要望に応えるというのはなかなか難しいので、どこを中心的にやるかというのは時代の流れもありますし、あるいはニーズもあると思います。できるだけ学校の先生の負担が軽くなるような形で、こういった形ができるかというのは教育委員会で議論していただいて、市のほうに提案していただく、そうい

う改善方法しかないだろうというふうに思っていますので、ご理解いただきたいと思っています。本日はタウンミーティングではありませんから、こちらの教育委員さんも学校の先生のゆとりある時間の持ち方というのは問題になっていますから、どうやってそれを改善するかという方法は、言うだけではなくて改善していくという方向に向けないといけないということで認識はしていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

あとは子どもたちの問題ですけれども、スマホとかいろいろ出ていますので、絶対スマホは使わせないという話もある市ではやっていますけれども、海老名ではそういった部分はまだやっていません。しかしながら、買ひ与えているのは保護者の皆さんでありますから、その辺の認識は向上しないといけないだろうと思います。今回の関係は今言った形で少しここで一歩行きたいと思っていますので、よろしくお願ひしたい。

本日は教育委員会のメンバーがいますので、事務業務の関係でももう少し軽減できる対応があれば、予算編成期ですから、一歩前に出るような形で検討を始めていただきたいと思っています。部活動の調査は今始まって、やっていますよね。

○伊藤教育長 部活のほうは、今、部活動担当の教職員の調査と生徒の調査を行っています。先ほどご質問がありましたけれども、文科省は、最初に発散のほうの問題だと。ただ、文科省ではどうのということではなくて、これは市町村の問題なので市町村で方針を定めろということでございます。神奈川新聞にも載りましたけれども、海老名市としては、現在の調査をベースに問題点を探って、できれば今年度中に検討委員会のようなものを定めて、私としては、中学生の体のこともあるので、医師の方にも入っていただいて検討委員会をつくり上げて、次年度いっぱいをかけて方針を定める。ただその間、今現状で、各学校で部活動の活動のやり過ぎということについては、例えば1週間あったら月曜日はお休みにしようとか、そういうルールはある程度できています。ここで難しいのは、さまざまな意見があるということです。ですので、私は保護者の人にもその場に入ってもらいたいのです。同じ部活の中で、中には毎日やってくれ、朝練をなぜなくすのだという方もいるし、やり過ぎじゃないか、週に何回か遊ばせるべきでしょう、さまざまな意見がありますので、それらの意見を調整せざるを得ないかなと思っています。

でも、そこにはもともと部活は何のためにあって、子どもたちにそこで何を身につけさせるか、それとも神奈川県一とか全国一とか、そういう目指すものがあったとしても、そのためだけに中学校の部活動は存在しているのかとか、そういう議論も必要ですので、それに対してどれぐらいの活動時間が必要で、子どもたちの健康上、体のことを考えたらど

れが正しいのかということもありますので、海老名市としてはその検討委員会を多くの立場の人たちに入っていて、つくって、子どもたちの実情や教職員の実情をベースに話し合いを重ねて、来年度中には海老名市としての方針を立てたいと思っています。進め具合としてもっと早くということはありませんけれども、やはり十分な議論の上で進めたいと思います。それまでの、例えばやり過ぎとかの議論については各学校で対応して、安全を損なうことのないような対応は急務ですのでやっていただく。でも、市全体の方針としてはもう少し時間をかけたいと思っていますので、よろしくご理解ください。

○内野市長　そういう形でよろしいでしょうか、教育委員の皆さん。それでは、この議題は以上といたします。

○内野市長　次に、協議事項２、保護者の経済的負担のあり方についてを議題といたします。簡潔に事務局から説明をお願いします。

○教育部次長　それでは、保護者の経済的負担のあり方についてご説明させていただきます。

お手元の資料11ページあるいは前のスライドをご覧ください。先ほど教育大綱につきましてご説明申し上げましたが、その中で安全安心な環境と新たな学校施設への取り組みが示されてございます。

丸の２点目、義務教育に係る公費負担のあり方の検討ということを位置づけてございますが、具体的に申し上げますと、その下、小学校１年生、中学校１年生の教材費の無料化などを実施し、保護者の負担軽減を図ります。それからもう１点、義務教育に係る保護者負担の軽減と学校徴収金についての検討を進めますと記載されてございます。そういった中で、現在本市が行っているものを大まかにまとめてございますので幾つかご紹介させていただきます。

まず教育関係でございますが、１点目が新入学児童生徒に係る教材費の公費負担でございます。こちらは昨年度から実施しておる事業でございますが、小学校１年生、中学校１年生の新入学の児童生徒に係る教材費を公費で全額負担という形でございます。

２点目でございますが、こちらは生活困窮世帯等の就学の援助でございます。

３点目が奨学金の給付でございます。こちらは、市内にお住まいの高校生を対象に現在40名程度に奨学金を給付しているところでございます。

４点目が野外教育活動費の公費負担でございます。こちらは小学校におきましては野外

教育活動費、それから食費など、全ての経費について公費で負担しておるところでございます。ただ、中学校におきましては食費を除いた野外活動の活動費を公費によって負担しているところでございます。

5点目といたしまして部活動費の充実でございますが、他市では部活動費を徴収しているところもあるようですが、当市におきましては公費を投入しまして、保護者の負担の軽減を図っているところでございます。

6点目が学童保育保護者の負担軽減でございます。特に生活困窮世帯に対して学童保育料を上限が1万2000円の範囲内で公費をもって負担しているところでございます。

次に福祉の関係でございますが、1点目としまして子ども医療費の助成でございます。こちらは近隣の自治体では小学校6年生あたりまで負担しているところが多いのですが、当市においては中学校3年生まで医療費全て公費負担という形で、県内でも数がまだ少ないと思います。

2点目ですが、こちらは幼稚園への就園の奨励あるいは就園の援助を、公費を使って負担してございます。

3点目ですが、乳児への紙おむつの支給。

最後に4点目ですが、保育料の負担減。これは、生活保護世帯などでも保育料は徴収されるのですが、当市においては公費でそれを負担しているところでございます。

これらは一例でございますが、本日は保護者の経済的負担のあり方についてご議論いただけたらと思います。説明は以上でございます。

○内野市長 委員の方、何かございますか。今ちょうど予算編成時期に入っていまして、いろんな議論がありますけれども、この間も教育委員会で実施計画のヒアリングがありまして、損害保険の関係については一定の提案がありました。

小中学生全部、損害保険を行政として掛けるという話で、去年の段階ですと1000万円以上要ったのかな。今回いろいろ交渉すると、保険の内容があるのですが、4分の1ぐらいに削減されてびっくりしているのですが、これについては教育委員会のほうではもう既に実施計画に入れ込んでほしいという話がされています。

もう1つは、オリンピックの関係で英語力を高めたいという形で、今、外国語の関係でいくと年間3000万円ぐらい使っていますけれども、それを倍ぐらいにしたい。4年間で小中学生の子どもたちが日常会話程度はできるレベルまで持っていきたいという形で今教育委員会は方針を掲げています。これについては財政的な問題がありますから、今後、市内

部でも議論していきたいと思いますが、保護者負担軽減で皆さんのほうからあればよろしくお願ひしたいと思います。

○海野委員 ただいまの英語力の件ですけれども、少し前に教育長からもお話は出たと思いますけれども、英検がありますね。今、中学生は英検を受けているお子さんがすごく多いと思いますので、それについての何か学校対応というか、補助を出していただけたらなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○伊藤教育長 計画には入っていますから、あとは話し合いの中で入るかです。

○内野市長 計画には入っています。これを財政的な面として認められるかということで、今財政当局と実施ヒアリングの段階ですから、今後どうするかということは議論があらうというふうに思っています。ほかにはありますか。

○松樹委員 流れの中で海老名市は本当に保護者の経済的負担の削減といえますか、いろいろ手厚く援助していただけているなというふうにいつも思っております。私も今中学校2年生の子どもがおりますので、昨年中学校1年生で教材費の無償化をしていただきまして大変助かりました。ありがとうございます。

先ほどの市長の話で、保険の話が出たと思います。私、毎回言っておりますけれども、ぜひフルガードといえますか、今本当にグレーゾーンが多かったりします。部活の移動中だったり、先日も大分でしょうか、部活の移動中に、あれは車の事故ですけれども、中学生2人が亡くなるという本当に痛ましい事故が発生しましたけれども、あれも部活の保護者の方が運転手を務めてという、あれも保険とかはどうなっているのかなとか思ったりしたわけでございます。学校の中で入っている保険というのは本当にグレーゾーンが多過ぎて出ない場合が多かったりしますので、フルガードという形でぜひお願ひしたいなと思っております。ただ、前もお話が出ていましたけれども、この件につきましても、保険ですので本来は保護者がお金を出してやるべきじゃないかというご意見もありますし、いろいろな意見があつてよいと思いますが、丁寧に市民の皆さんに話していくようなことなのではないかと思っております。ぜひフルガードという形でぜひお願ひしたいなと思っております。

少し話が戻って申しわけないのですが、教材費は今、小学校1年生、中学校1年生という形ですが、どうしても義務教育で教材費というのは、うちは要りませんとか納めませんというわけにはまいりませんので、予算面ということですが、私はできたら順次少しずつ増やしていくような形だったり、また中学校3年生は受験とかがあったり、いろんなこと

がありますので、段階的に広げていっていただけるような施策をとっていただくと本当にうれしいかなと思っております。

細かい話ですが、学校でどうしても必要なもの、例えば名札とか、あれも全部教材費の中だと聞いています。あと生徒手帳も親が買っている話ですので、その辺は、海老名市民として海老名の小学校に通っているわけですので、ぜひ無償で、市のほうで負担していただくといいのではないかなというふうに。金額は換算したわけではありませんのであれですけれども、その辺はすぐにでもやっていただきたいなと思っております。また、中学校2年生、3年生、小学校の2年生、3年生、また6年生までというのは、段階的に増やしていく方向でぜひ進めていただきたいなと思っております。

○内野市長 ほかに。よろしいでしょうか。どうぞ。

○平井委員 私、先日委員会の中でも少し話題にしましたが、保育園の保育士さんが園外活動で子どもたちを連れて歩いていたときの会話を耳にしたのですね。保育士さんたちの住んでいる場所がそれぞれだったのでしょうけれども、その中で、あそこの市は給食が温かくていいのよねとか、ここは子どもたちの、それは海老名のことだと思いますが、医療費の補助があっていいわねって。これから新しく子どもを就学させるのか、お家を新しく建てるのか、何か自分たちでそういうようなところを話題にされていたのを、偶然庭に出てそんな会話を聞いたのですね。

今の保護者の方たちはそれぞれに子育てをする中で、例えば家を買うにしても、ただここでということではなくて、今後子どもたちを育てていくにはどういうところで育てたいのかなという思いが以前よりもはっきりしてきているのではないかなと思います。ですから、そういう部分も含めて、確かに教育の部分でもいろんな軽減がされていますが、やはり今の保護者が望むものは一体何だろうか、温かい給食なんだろうか、医療費助成なんだろうか、いろいろなものがあると思うのですね。ですから、そういう部分でも少し、幼児を育てているお母さんたち、それから就学をさせているお母さんたち、これから社会に出る子のお母さんたち、それぞれのお母さんたち、保護者の考えを聞いてみるのもよいのかな、みんなそれぞれの思いがあると思うので、全てを万遍なくということではありませんが、同じお金を使っていくならば、みんなが望むものにつぎ込んでいくのがよいのではないかなと、最近そんなことを思いました。

○内野市長 基本的には小児医療でも無料にされていて、年間5億円使っています。いわゆる政策経費じゃなくて、23年からずっとやると経常経費になってしまうと。やめられなく

なってしまうわけですよ。だからどこかで、時限立法じゃないですけども、いろんな助成金とか補助金があるのだけれども、その部分でどうしても選択と集中、どこに集中して選択するかという問題があるのですね。つくづくその辺が難しい時代になってきたなと思います。

数年前は学童保育といったら国は何もやらなかったのですね。一定の補助金しかくれなかった。今は学童保育とか待機児童って国からどんどん来ています。1つだけ言えることは、海老名市が保育園を公立でつくったら、全部海老名市が賄います。ところが、財政的に大変なところは、4分の3は国から補助金が交付税で来ます。民間の保育園ですと、運営費の4分の3は国から、4分の1は海老名市から出ます。よって、海老名市は公立をどんどんつくと一般会計からどんどんお金が出ます。よって、民間の社会福祉法人にしっかりした保育園をつくっていただきたいという形で動いていますけれども、保育園も、将来子どもの人口は減っていきますので、共倒れになっちゃいます。将来、民間を維持させるためには、公立は今6園ありますけれども、ある程度公立を縮小するしかないと思います。民間を潰すわけにいかないのです。保育園とかは、民間と公立の役割分担という議論が必要な時代です。

今、待機児童で苦勞していますけれども、将来子どもたちが少なくなるのは5年後といわれています。先ほど平井委員が言ったとおり、子育て環境はどこがよくするのか、その辺のポイントはすごく重大だと思います。海老名はまだ人口が増えていますので、その部分では問題・課題はまだあります。しかしながら、地方へ行くと待機児童はゼロです。子どもがいないのですから。地方へ行くと学校の統廃合が始まっています。うちの姉妹都市の白石市も小学校か中学校をつい最近廃校にしました。地方とこちらでは大分違うし、将来を見きわめてどういう選択をするのか、これも1つの教育の場面でも出てくる話だと思います。学校が19校必要なのかというところではなくなる。しかしながら、学校を全て廃校にできるかというところできません。海老中と海老小というのは歴史があって、昔からグラウンドが狭い。もっと広いグラウンドの中学校へ行くべきじゃないかと私は思いますけれども、移動させるのが大変なのですね。その辺は今後学校施設のあり方検討で教育委員会でも議論していただくようになっていますので、今年度予算にそれは入っていますので、いろんな議論の仕方があろうと思います。限られた予算でどこに集中して選択するというのは難しいなとつくづく思っています。そういった面では意見をいろいろお聞きしたいと思っていますのでよろしくお願いしたいと思います。

保護者負担についてはよろしいですか。皆さんから言うと、これをやってくれ、あれをやってくれと、どんどん出ちゃうので切りがないので。これだけは言っておきたいという人がいらっしゃるいましたら手を挙げてください。よろしいですか。

それでは、今教育委員会から出されている問題、1つだけお願いしたいのは、本日は保護者の方がいらっしゃるのですけれども、学校給食を公会計にしました。今まで学校で集めていたものを市役所が今集めています。それはなぜかという、年間で3億円を集めていました。任意団体の学校給食運営委員会がそのお金を集めていました。委員長は校長先生でありました。

藤沢でその事件が起きました。女性の方が6500万円使い込みました。6500万円使い込んだのが弁償されたかという、払う能力がないというので弁償されていません。どこから出ていったかという、皆さんから集めた藤沢市の税金から払いました。

それがこわいので私どもは公会計にしました。はっきり申し上げて、わかっていましたから。ところが、1つだけ決定的なことが現れました。給食費を払わない人が多くなった。その方たちは保育料も払っていません。そのまま小学校へ行くと払ってくれません。ところが、修学旅行費は払ってくれるのです。給食費は払ってくれません。それは義務教育だからという理由です。ところが、給食は1食500円以上かかります。食材だけを4,500円払っています。

皆さんに理解していただきたいのは、私どもはできるだけ学校で集めるお金は公会計にしたいと思っています。修学旅行は皆さんが、中学校は特にそうでありますけれども、お金が高いので旅行会社と契約をします。ところが、旅行会社が潰れた場合どうするかという問題があります。数年前は教育委員会が補償してくれると旅行会社が言っていました。潰れた場合はそんなの補償できっこありません。そこが問題なのです。

公会計にすることによって19校の修学旅行が入札という制度で入ります。入札することによって単価は絶対二、三割下がります。行き先とかは学校と旅行会社が話せばいいわけですが、学校の集めているお金はできるだけ公会計にすることによって、事件・事故が起きません。なぜこうなってきたかという問題は藤沢市の例を見れば歴然としています。6,000万円ですから。それが海老名は3億円あるのですから。藤沢市はもっとあるのですよ。4倍ぐらいですから12億円のうちの6,000万円をとられたという形です。本日保護者の皆さんがいらっしゃいますので、そういった実態があることだけはお願いしたいなと思います。学校給食費を払わないからといって子どもに食べさせないわけにはいかない

のです。見せしめになりますから。学校からもお願いしていますけれども、なかなか徴収できない人がいらっしゃいます。それも事実なのでお話しさせていただきたいと思います。

○内野市長 次に、協議事項３、その他（海老名中学校区での身近な話題などについて）

を議題といたします。海老名中学校区、小学校、中学校ありますけれども、身近な問題で何かございましたら。校長先生、何かありますか。予算を上げてくれというのは今の段階では余り言わないようにしてください、よろしくお願いします。

○海老名中学校長 私、４月から海老名中学校に赴任いたしまして数カ月経っているのですけれども、赴任して、保護者の方々の教育活動に対する意識が非常に高いというところを一番感じております。昨日、授業参観と学級懇談会を実施したのですけれども、そこへの参加率が66%ということで、全クラス20名前後、半数以上の世帯の保護者が来ているということで、以前何校か中学校も経験しているのですけれども、初めてでございます。1クラスに大体10名から15名ぐらい来ればいいかなというところを半数以上のご家庭が来るということで、教育活動に関する意識が非常に高い地域だなと感じています。また、保護者に対してアンケートをとって、その中で、学校の行事、例えば体育祭とか合唱コンクール、授業参観、PTAで行っている公開講座ほどのぐらい参加していますかというパーセンテージが82%。学校へ来ていただいている回数も非常に多いというところが一番海老中の特色かなと思います。

また、少し課題かなと思うところは、子どもに対してアンケートをとりまして、その中で、地域の行事に参加し地域の方とかかわっていますかというところが39%で、少し低いかなというところで、もう少し子どもと地域がかかわれるような活動も取り入れていかなければいけない。これは学年が上がるにつれてかかわっているという意識が高くなっています。それはなぜかなというところで、職業学習ですか、調べ学習とか、2年生になれば職業体験、地域に出て行って学習する、そういうことをするとだんだん意識が高くなって行って、1年生よりも2年生、2年生よりも3年生という形で地域とかかわりを持てているというパーセンテージが高くなっています。ですから、その辺を課題として、今後学校と地域がより連携を深めて密接にしていかなければいけない、そのように感じております。

○内野市長 ほかにはございますか。安齊先生、藤吉先生。どうぞ。

○海老名小学校長 今、海老名中学校の飛矢崎校長先生のお話がありましたが、本当に本校も授業参観に大勢の方が来ていただいていますし、懇談会にも大勢の方に残っていただいています。また、行事に対しまして本当に多くの方が参加してくださって感謝しています。

それから、日ごろから学校教育に対するボランティアの方がいらして、先ほど傍聴の方からお話がありましたけれども、家庭科の授業であったり、体力テストのときの補助であったり、大勢の方に気持ちよく学校の教育活動に対してのご支援をいただいています。とても感謝しています。

また、お父様のボランティアの会もありまして、運動会での見回りであったり、片づけであったり、2月に餅つき大会をしてくださったりして、本当に皆さんが学校に対して協力してくださっていることに感謝しています。これからも地域の方といろんな関係を結びながらやっていきたいと思っております。

○杉本小学校長 杉本小学校も大変多くの地域の方にご協力いただいております。また本校の特色としては、6年生の半分が柏ケ谷中学校に進学します。また半分は海老名中学校に進学します。総合教育会議を柏ケ谷中学校でも前回は行いましたが、そちらにも私は出席して、柏ケ谷中学校区の方たちとも交流する、また本日は海老名中学校区でということで、両方の中学校区バランスをとって行事に参加するということ。PTAのほうもそうです。柏ケ谷中学校区のPTAの連絡協議会もあります。本校の生徒はどちらの学校にも進学しますので、今ここに課題ということがありますが、小中一貫の教育をする上で、柏ケ谷中学校とも交流し、海老名中学校とも交流しということで、今年は校内研究に中学校の先生方に参加していただいたり、あとは海老名中学校とはサマースクールの際に切り絵部の生徒さんたちに指導していただくとかいうことで、どちらの学校さんともつながりを持って、子どもたちが安心してそれぞれ進学できるように取り組んでおります。いろいろと校長先生方とも風通しのいい交流をしてと、心がけております。

○内野市長 本日いらっしゃっている傍聴の保護者の方、何かございますか。よろしいですか。

学区の問題は相当難しいので、このところ、海老名小学校は満杯になっているでしょう、安齊先生。そうでしょう。でも、藤吉先生のほうの杉本が全部柏ケ谷に行くということもおかしいのだよね。そうなのですよ。基本的に適正にやっても開発があるとすぐこうなりますので、これからは今泉小学校がマンモス校になっちゃいます。西口のマン

ションとか戸建ての人たちはみんな今小へ行きますから。今泉小はグラウンドが広いので、校舎を建てられるので、今教育委員会で、教育長ともいろいろ話して、即準備を始めようとしております。

海老名小学校は敷地がすごく狭いです。ここが難点ですね。ここは一部まだ隣地があるのですよ。お寺さんから借りているところがあり、お寺さんに地代をきちんと払っています。海老名小学校、海老名中学校のところでは、問題はグラウンドが全部狭いので——私、出身が海老名中学校で、全く変わっていませんから。外のバレーボールコートがありますよね。この間も、あそこにマットでも敷いてあげたらと指示したのだけれども、外でバレーボールの練習はできないじゃないですか。そういった部分を少し配慮したらどうかという話も言っています。狭い中でも子どもたちが安全に部活動をできるとか、それからこういう形だったら改善できるという形で少しやっていきたいのでよろしくお願いします。

中学校をどこかへ移転させるのが一番よいですね。改編して全部小学校にする。海老中学校というのをどこかへ設ければよいのですけれども、設けるとするとうちの市役所しかない。それも1つの案ですけれども、海西中学校も少なくなっていますから、中学校の統廃合と、それから将来は高校が少なくなりますから、海老高との中高一貫校というのもできる可能性もあるのですね。地方は全部そういうふうになっていますから。将来を考えると、どういう形がよいかというのは、今後教育委員会で議論する必要があると思います。これは避けて通れない。そのときに考えろといってもいろいろな問題が出ちゃいますから。10年後を見据えて今何をやるべきかを考えていかないといけない時代になってきますので、よろしくお願いします。

学校の先生の話はわかりましたので、いろんな関係で地域との関係が薄らいでいますので、行政もそうなのですけれども、自治会の加入率が今平均75%です。隣の座間市に行くと50%に落ちますから。10人に5人は自治会に入っていない。海老名はそれを少し上げて、やはり地域とのかかわりでは学校も中心となってやっていきたいと思っていますので、いろいろな関係で協力、連携していきたいと思っています。

それでは以上、協議事項の3については以上といたします。

以上で本日の日程はすべて終了いたしましたので、司会を教育部長に戻します。

○教育部長　ありがとうございました。

それでは最後に事務連絡でございます。次回ですけれども、11月20日（日）午前10時か

ら、有馬中学校区、有馬小学校で開催を予定しております。ぜひご参加いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして第3回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたりましてありがとうございました。